「戦争をさせない かながわの会」結成

戦争への道を突き進む安倍政権の暴走を阻止

「集団的自衛権行使容認」阻止
「特定秘密保護法」廃止

8月28日、かながわ県民サポートセンター（ホール）にて、「戦争をさせないかながわの会」の結成集会と講演会が開催されました。呼びかけ人代表の福田護弁護士、中央の「1000人委員会」事務局長の内田雅敏弁護士のあいさつの後、以下の報告が確認され、設立の運びとなりました。

安倍政権は昨年12月、多くの人々の反対の声をねじ伏せ、「特定秘密保護法」を強行採決し、成立させました。さらに、「平和主義」を規定した憲法9条を空文化する「解釈改憲による集団的自衛権行使容認」へと踏み込もうとしていました（2014／7／1閣議決定）。

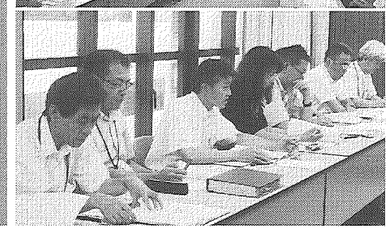
「戦争をさせない1000人委員会」運動の立ち上げを提起していました。

神奈川平和運動センターは、この提起を受けて、神奈川人権センター、かながわ憲法フォーラム、憲法を守るかながわの会の4団体による準備会を重ね、「戦争をさせないかながわの会結成準備事務局」を設置し、準備会では「呼びかけ人」をお願いしてきました。そして、中央の「1000人委員会」に賛同しているメンバーと4団体からの推薦メンバーに委嘱し、結成集会を開催することとなりました。

この会は、その設立趣旨から、これまで神奈川県内各地域で積み上げてきた運動との連携を重視し、その発展を期すため、ネットワークとしました。各団体の運動を尊重しつつ、神奈川県域で中央の「1000人委員会」の運動と連携してとりくみます。政党や政党名での参加はご遠慮いただき、当面の最大の焦点は「集団的自衛権行使容認」の阻止を基本として「平和憲法」擁護、「特定秘密保護法」廃止など、戦争をさせない運動を創り上げることを目的とします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

結成後の「ピースデポ」代表・湯浅一郎さんの講演は、「集団的自衛権行使と神奈川の基地～軍事力によって平和はつくれない！」というテーマで、自衛隊の海外派兵や神奈川の基地が重責を担うこと等々、法的な観点と現実的な観点から「集団的自衛権行使」の問題点と危険性を具体的にわかりやすく話していただきました。



●教育予算「基本要求書」提出交渉
どこに重点化していくかということが重要（教育長）

分会からの要求提出を受けて、7月12日の第6回分で「教育予算基本要求書」を確定し、7月30日に提出交渉を行いました。馬島委員長から桐谷教育長に要求書を手交し、委員長あいさつの後、畠山書記長が主な項目について申し入れました。

教育長は「税収が不透明な中で、どこに重点化していくかということが重要と述べました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

で、教育環境整備をどこまでできるかを一生懸命考えていきたい。教育委員会制度が大きく変わり、知事の権限が拡大するが、現場に迷惑をかけないように運用していきたい。具体的な要求については課長たちとよく議論していただき、その上で判断をしていきたい」

・**高校教育指導課長**……「観点別評価について、検証のあり方は課題」「インクルーシブ教育については報告を受けて、これから検討する」

・**行政課長**……「起案は、できるものは効率化していく」

・**財務課長**……「就学支援金は申請期間を9月末まで延長する」「エアコン設置の拡大は今後の検討課題」

・**人事課副課長**……「定数改善は地方が弾力的に運用できるように要望する」「非常勤の休業中雇用の一律接続は困難なので、個別事情に応じて対応する」

・**学校支援課長**……「カウンセラーについてはSVを置き、緊急支援チームも編成している」

・**ICT担当課長**……「パソコンは今年度から一人一台配備をスタートさせた」

・**高校教育企画課長**……「成績処理システムは改善要望に可能な限り対応している」

・**まなびや課長**……「耐震化診断は完了しており、計画的に着工するが、完了は未定」

・**教職員企画課長**……「多忙化解消については教育局と学校が連携してとりくみたい」「臨任の休暇制度は全庁的な問題なので……」

原水禁広島大会「神奈川親子代表団」報告
感動した「被爆したアオギリ」

私は、8月4・5・6日に広島で行なわれた「被爆69周年原水爆禁止世界大会」へ神奈川親子代表団として行きました。

一日目の活動で一番印象にのこったのは、原爆資料館を見学したことです。そこでは、原子爆弾や被爆者のことなどについてくわしく書かれたパネルがあったり、原子爆弾が落とされる直前や直後の様子を表したジオラマが展示されていました。

原子爆弾が落とされる直前のジオラマでは、家やお寺などが沢山建っていましたが、直後の方は、建物が跡形もなくなっていました。

それを見て原子爆弾というのは、どんなものでもすぐに壊してしまうような怖いものなんだなということがわかりました。私は原子爆弾を作っている人に、すぐ作るのをやめてもらいたいし、そんなものが作れるほどかしこいのなら、ほかの方法で解決出来る方法を考えてほしいです。

二日目は、慰霊碑めぐりをしました。感動した慰霊碑は「被爆したアオギリ」です。なぜかというと、「被爆してぼろぼろになったアオギリが自分で体を治したのを見て、被爆者達もあきらめずに生きることをがんばろうと思ったんですよ。」ということを力イドの先生から聞いて、「人間が勇気をもらえるほどすごい木なんだな。」と思ったからです。私はまだ死ぬほど辛い思いをしたことがありません。でも、もしこれからどんなに辛いことがあっても命には代えられないので、頑張って乗り越えていきたいです。

この三日間を通して、原子爆弾はとても怖いということを改めて知りました。私は原子エネルギーは、事故がないよう安全に平和のためだけに使ってほしいと思います。そして原子エネルギーについていろいろ勉強をしていきたいです。

「戦争をさせない1000人委員会」7.31集会
閣議決定を今すぐ撤回しろ！

7月31日、東京の全電通労働会館ホールで、安倍内閣による「集団的自衛権行使容認」閣議決定の即時撤回を求める大規模な集会が開催されました。

会場は開会前から満席となり、中に入れない人が大勢いました。

明治大学の浦田一郎教授による講演は、今回の決定が集団的自衛権解釈の歴史から逸脱したものであることを論理的に解析し、今後の課題を提示するものでした。

また、沖縄平和運動センターの福元勇司副議長からは、辺野古の海で基地の着工が強行されたことについて、強い憤りを持って報告がありました。

高校神奈川
発行人　馬鳥　敦
編集人　岩崎　長久
横浜市西区藤棚町2の197
高校教育会館内
TEL　045(231)2479
FAX　045(231)2536
http://www.fujidana.com